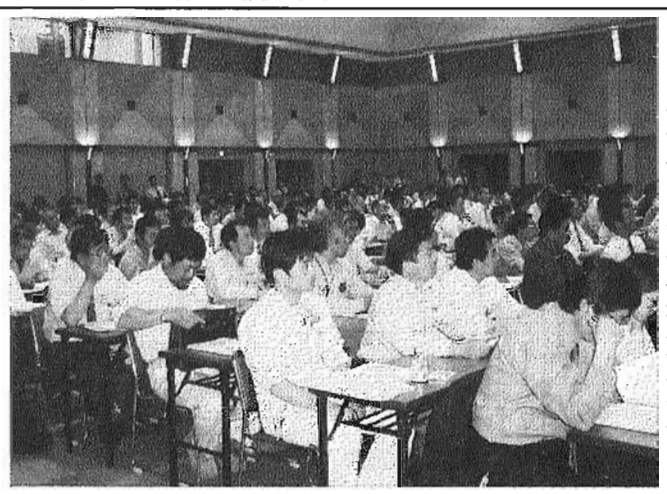
公庫制度改正等学ぶ

住宅関係制度説明会

県と県住宅・建築総合センター共催の「15年度住宅関係制度説明会」は23日、鹿児島市の県庁講堂で開かれ、約450人が参加して、公庫制度改正事項や優良住宅制度、環境共生住宅などについて学んだ。



約450人が参加して行われた説明会
＝鹿児島市の県庁講堂で

説明会の冒頭、春原浩樹県土木部住宅課長が「県内の住宅着工戸数は前年度比9・5％減少し、厳しい状況が続いています。良質な制度を積極的に活用していただくため、今日はさまざまな制度を勉強し、身に付けてほしい」と挨拶。

続いて説明会に入り、住宅金融公庫南九州支店の宮内氏が公庫制度改正事項等について解説し、住宅金融公庫の事業計画、融資の重点化・スリム化、リフォームローンの融資承認時期の変更など制度の改正事項を詳しく説明した。

また、県住宅課の各担当部長らがかごしま優良住宅制度や環境共生住宅のメリット、高齢者向け優良賃貸住宅の仕組み、住宅性能保証制度、指定確認機関等業務などについて解説、参加者らは各講師の詳細な説明をメモを取るなど熱心に受講した。

更なる繁栄を祈念

創立30周年記念祝賀会

㈱南日本新聞オフセット輪転（大囿純也社長）は23日、鹿児島市の城山観光ホテルで創立30周年記念祝賀会を開き、取引先の新聞社や業界関係者ら約100人が出席して、繁栄を祝うと共に益々の発展を祈念した。

祝賀会では初めに、大囿社長が「昭和48年、南日本新聞社と県内最大手の印刷会社である渕上印刷㈱が中心となって会社を設立し、今年で30周年を迎える。これもひとえに各方面の皆様方のご協力の賜物と深くお礼を申し上げます。このほど新型輪転機を導入し、本日、始動式を行った。今後も、競争と協調が重要ということを実践的な目標として、これらをフル活用しながら皆さまのご期待に応え、信頼性のある高い品質を提供してまいりたい」と挨拶。

続いて、来賓の辺見弘公明党機関紙委員会委員長、原田光治聖教新聞社代表理事、前川哲朗日本経済新聞社製作統括本部長らが「本日の良き日を迎えられたのも、ひとえに先代社長をはじめとする社員皆様方の努力の賜物と深く敬意を表します」「印刷文化・活字文化を担う、御社への期待は大きい。今後の更なる発展を祈念致します」とそれぞれの立場から祝辞を寄せた。

このあと、乾杯の音頭で祝宴に移り、奄美島唄などの余興などで会場は盛り上がり、30周年の節目を祝うと共に今後益々の発展を祈念し、杯を酌み交わした。

なお同社は、このほど半裁輪転機の高速化、カラー増を目指し、東京機械製タワー型輪転機カラートップ3000を導入、本日、始動式を行い本格的に稼働を始めた。

今後も信頼性のある高い品質を提供していきたい――と挨拶する大囿社長＝鹿児島市の城山観光ホテルで

家生かす庭づくりに

晃栄住宅

県内7店と熊本、宮崎に各1店の合計9店体制でFCのユニバーサルホーム及びオリジナルブランドの住宅事業を展開している㈱晃栄住宅（仙田次雄社長）は23日、鹿児島市山田町に全国でも最大規模で300種以上のエクステリアやガーデニング等を展示する住宅外構専門「庭案館」の展示場を公開披露した。

全国最大規模となる庭案館
＝鹿児島市山田町で

同館は24日の一般オープンに先立ち、同社の15周年（150棟の引渡し実績）に合わせ家づくりに庭づくりをプラスし一括した提案をしたいとの考えから、300種以上のエクステリア等を展示する展示場をオープンする。展示は柱、門扉、外柵、ウッドデッキ、タイル、ブロック、フェンス、カーポート等を実際に等身大のモデルを使い設置しているほか、各種関連資機材類、グッズを展示、販売する。従来分かりにくかった料金についても、それぞれ表示し明確にしている。また、お客がゆっくりとくつろぎゆとりを感じられる空間スペースを提案したいとの思いから、ベンチなども多く設置されている。

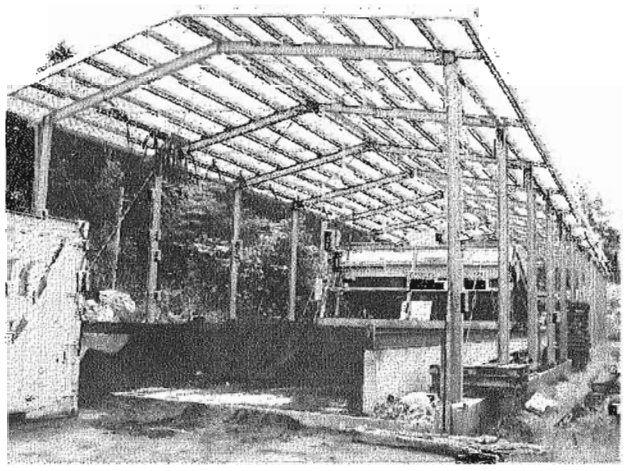
同日は仙田社長が「家には瑕疵担保保証などがあるが外構には保証などがなく、カタログなどでの商談が主流であったことから、実際に実物を見てもらい納得して選んでほしい。また、家を生かすのも庭づくりだとの思いから、同館をオープンした」と述べ、庭づくりをプラスすることで街づくりができる。今は、周りとの調和を含め街づくりが一番重要であると締めた。

なお、同社は品質を重視しISO9001等も取得しユニバーサルホームや平屋事業部、クリエイトホームズ事業部、夢倶楽部事業部、アパート事業部などがあり、今回の庭案館事業部のオープンで6事業部を展開する。

木くず循環処理施設

自治体からも問合わせが

㈲鹿児島培養土（園田純明社長、本社・日置郡伊集院町）は平成15年1月、日置郡東市来町養母に木くず中間処理施設を開設。1次破砕したチップは県外の木質系ボードチップは、メーカーの要望に合わせ規格をそろえ毎週50立方㍍出荷。また培養土や腐葉土は、園芸センターの永田正人住宅部順調に稼



同施設内にある撹拌発酵槽
＝東市来町の処理施設内で

発酵槽で撹拌して腐葉土や培養土に商品化。卸・小売でも販売するなど、県内初の循環型処理施設に、同川の河床掘削土の処理、低地水田部における用水不足などを解決すべく58年度に「川内川等水土利用事業」が計画され、県営ほ場整備事業により網津、湯島、陽成地区356㌶に中洲などの除去客土による整備と、本かんがい排水事業による農水、上水、工水を丸山に取水口を設け揚水機場を建設、送水して地域用水の安定を目的に計画。第1号揚水機場（川内川から取水・丸山）から馬蹄形導水トンネル（L15595m）で高城川へ、第2号揚水機場（高城川から取水）から吐出送水路（L1190m）を経て1～6号送水路（L8520m）で給水に至る一連の事業。事業年度は、昭和59年度～平成14年度、総事業費は23億2300万円。

チップは、メーカーの要望に合わせ規格をそろえ毎週50立方㍍出荷。また培養土や腐葉土は、園芸センターの永田正人住宅部順調に稼

広報板に掲示して腐葉土や培養土に商品化。卸・小売でも販売するなど、県内初の循環型処理施設

うやく商品化できたもので、大手園芸センターなどに販路も確保した。

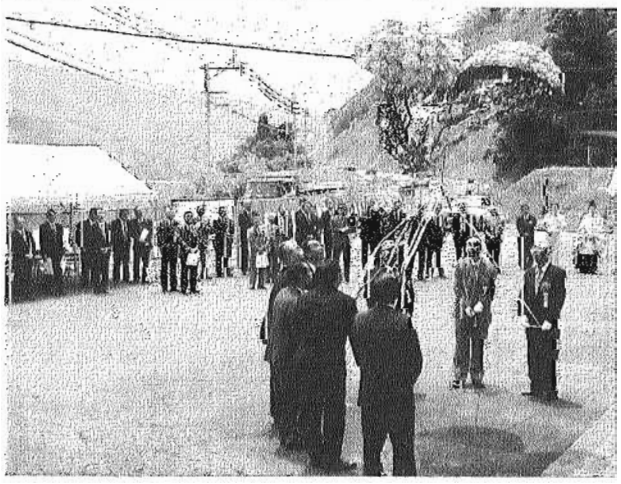
「木くず再処理は入口よりも出口に多くの課題を抱えているので、これで何とか解決でき、循環型処理施設として機能していける目処がついた」（同社長）と話していた。

近隣の自治体から問い合わせや見学もあるなど、順調に動き出した。受け入れる木くずは直径50㌢までで、土日を除く午前8時から午後5時まで。場所は市来ダム入り口近く。

詳しくは、同社（日置郡伊集院町妙円寺1－7－5 ☎099・273・3272）まで。

農水等を安全・安定供給

県営かんがい排水事業 川内右岸地区竣工式



くす玉を割り竣工を祝う関係者
＝川内市の丸山共同取水場で

県営かんがい排水事業「川内右岸地区」の竣工式が23日、川内市の丸山共同取水場で行われ、関係者約40人が出席し、構想から20年を要した同事業の完成を祝った。

式は、神官による祝詞奏上などに続き、森卓朗川内市長や星野清治川内耕地事務所長らが玉串奉てんを行い、くす玉を割って竣工を祝った。続いて、場所を移して祝賀会が行われ、森市長が「念願の事業が竣工して上水、工水、農水にと安全に安定供給できる施設が竣工したことを感謝する」と挨拶。星野所長が工事経過報告を行った後、来賓祝辞が寄せられた。

同事業は、昭和46、47年の川内川大洪水を契機